

戦国時代の転換点 3つの籠城戦を読み解く

安芸郡山城・出雲月山富田城・因幡鳥取城

開催日時

令和元年 **9月1日(日)**

午後0時50分から午後5時まで

開催場所

とりぎん文化会館小ホール

定員

450名(入場無料・要申し込み・要約筆記あり)

○電話、ファクシミリ、ホームページ、eメールのいずれかで、
住所・氏名・電話番号・参加人数をお伝えください。

※個人情報とは当フォーラム以外の目的には使用しません。



特別講演

「戦国の世を生きる人びと―雑兵・軍役・年貢―」

伊藤正義(元文化庁主任文化財調査官・元鶴見大学教授)

事例研究1

「安芸郡山合戦と城～尼子・毛利・大内の戦略～」

秋本哲治(安芸高田市教育委員会専門員)

事例研究2

「月山富田城籠城戦～対大内・毛利との攻防と戦前戦後～」

高屋茂男(鳥根県立八雲立つ風土記の丘学芸課長)

事例研究3

「秀吉の因幡侵攻―そのとき東伯耆は―」

眞田廣幸(倉吉文化財協会会長)

総括

「戦国時代の転換点を読み解く」

伊藤正義



ろうじょうせん

籠城戦とは

籠城戦というと、打って出ないで、守りに入るイメージですが、勝算はあったのでしょうか？攻城戦では、攻撃側の兵力は守備側の10倍以上必要といわれます。

城には反撃の仕掛けが多く、戦術的に守る方が有利とされています。籠城軍は敵を倒すのではなく、味方からの後詰めが来るまで城を守るのが役割で、後詰め軍が来援すると、攻城軍を挟み撃ちにできます。

籠城戦は後詰めが見込める場合は有効な戦術でしたし、籠城が長期に及んだ場合には、兵糧調達や降雪期、農繁期などで攻城軍にとって有利とはいえない状況もあったのかも知れません。**果たして、それぞれの籠城戦の実態は！**

主催/鳥取県埋蔵文化財センター

後援/鳥取市教育委員会・倉吉市教育委員会・湯梨浜町教育委員会・NHK鳥取放送局・日本海テレビ・(株)新日本海新聞社・日本海ケーブルネットワーク

申し込み・
問い合わせ先

鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 鳥取市国府町宮下1260

電話
ホームページ
Facebook

0857-27-6711

ファクシミリ 0857-27-6712

<https://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/>

<https://www.facebook.com/tottorimaibun>

フォーラムを10倍楽しむためのガイド

一、3城での籠城戦と因幡、東伯耆のかかわり

(1) 籠城戦と東伯耆

16世紀半ば、伯耆は出雲の尼子氏の支配下にありました。尼子氏による安芸郡山城の戦いにも伯耆南条氏は従軍しています。その後も中国地方の覇権を争う大内氏、尼子氏、毛利氏による戦いにおいて、南条氏は生き残りをかけ、戦の勝者にくら替えしながら従軍してきました。

そして、最後に中国地方の雄として勝ち残った毛利氏による尼子氏との戦いの中で、毛利氏が東伯耆から尼子氏を排除したことで、南条氏は東伯耆に復帰することができました。

しかし、最後は毛利氏を見切った南条氏が織田方に転じたことで、中国平定戦としての秀吉軍の因幡攻めにも大きな影響を及ぼすことになります。

(2) 籠城戦と因幡

この頃、因幡では尼子方の因幡守護（山名誠通）と反尼子の但馬守護（山名祐豊）が対立していました。大内氏の出雲侵攻で尼子氏が富田城に籠城すると、但馬山名氏は因幡侵攻を図ります。

因幡・但馬の戦いは、結局、但馬山名勢力が因幡を実質支配するところとなりましたが、毛利氏の因幡支配を

担った因幡武田氏は、因幡からの但馬山名勢力の排除に成功します。しかし、毛利氏への救援要請もかなわず、山中鹿介ら毛利氏の尼子攻めの残党による再興戦に乗じた、但馬山名傍系の山名豊国により武田氏は謀殺されてしまいます。

そして、山名豊国が城主となり、やがて吉川経家が入城する鳥取城に秀吉軍の因幡攻めが行われることとなります。

二、3城での籠城戦と秀吉軍による中国平定

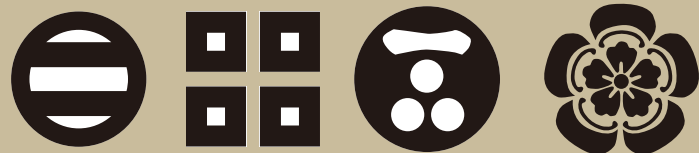
信長から中国平定を命じられた秀吉は、毛利氏に与し籠城する三木城を兵糧攻めで制圧し播磨を平定したことで中国平定戦に進みます。

2度目の因幡攻めでは、圧倒的な力で毛利方の城将、吉川経家が籠城する鳥取城を兵糧攻めで落城させ、中国平定の重要な足掛かりとします。羽衣石城に拠る南条氏の離反は、毛利氏の鳥取城救援への妨害になり、戦力分散によって毛利氏の山陽方面作戦への支障となるなど甚大なダメージを与えます。

翌年備中での毛利氏の援軍との全面対決では、高松城を水攻めで攻略することで、講和を成立させ、信長亡きあと全国統一へと突き進んでいきます。

◎ 埋蔵文化財センターによる中世城館の基礎調査

戦国時代、外部勢力の覇権争いに翻弄され、戦いの境目となった因幡・東伯耆において苦闘した武将たち、因幡武田氏や伯耆南条氏の対照的な動きや、合戦などの舞台となった関連する中世城館を調査研究することを通して、因幡・東伯耆の城館の特長や歴史の一端を明らかにし、地域振興などにつなげていきたいと考えています。



会場へのアクセス



徒歩で

JR鳥取駅から若桜街道を県庁方面へ約20分。



バスで

●路線バス

鳥取バスターミナルから
湖山・鳥大線、賀露線など

「県庁日赤前」バス停(所要時間約5分)下車すぐ

●循環バス「くる梨」

鳥取バスターミナルから運行
赤コース、青コース、緑コースとも

「とりぎん文化会館」バス停(所要時間約15分)下車すぐ



駐車場について

とりぎん文化会館の駐車場が利用できます。

満車の場合は、鳥取県庁構内などをご利用ください。